

図16 タイワンガザミの抱卵率の季節変化

$$\text{抱卵率} = \frac{\text{抱卵尾数}}{\text{全雌数}} \times 100$$

は3月から9月頃までといえる。抱卵期間は八塚（1962）によると7～20日なので産卵盛期は抱卵率の高い時期とほぼ同じとしてよいだろう。

### 3 漁獲サイズ

沖縄市では6～7月に漁獲されるタイワンガザミは甲幅130～135mmにモードがある。甲幅100mmに達するのにふ化後4ヶ月、120mmに達するのに約5ヶ月（島袋，1982），あるいはふ化後約5ヶ月で100mmに成長する（本報告）という飼育例から考えて、この時期主体をなす群は前年産である。また6月に出現している90～100mmの小型個体は当年3月生まれの成長の速い群かも知れない。8月には120mm前後のカニの占める割合が高くなるが、天然群が島袋（1982）の飼育例と同程度の成長をするならばこれらは3～4月に生まれた当才早期群である。9月になると当才群の成長に伴い主群のモードは130～140mmとなるが、それ以降1月までは変化がなかった。

勝連では5～6月は甲幅120～135mmに主群のモードがある。これは明らかに前年産である。6～7月から70～100mmの当才早期群と思われるものが出現しはじめ、8～9月にはこの当才群が120mm前後に成長して漁獲されるカニの多くを占めるようになった。8月以降主群の甲幅モードは8月の115～120mmから11月の135～140mmへと大きくなったがそれ以降はほぼ同じ大きさのものが漁獲された。勝連の漁獲サイズを沖縄市と比べると9月までの主群のモードが10～20mm小さめとなっており、勝連で漁獲される前年産群は沖縄市のものより明らかに小さい。

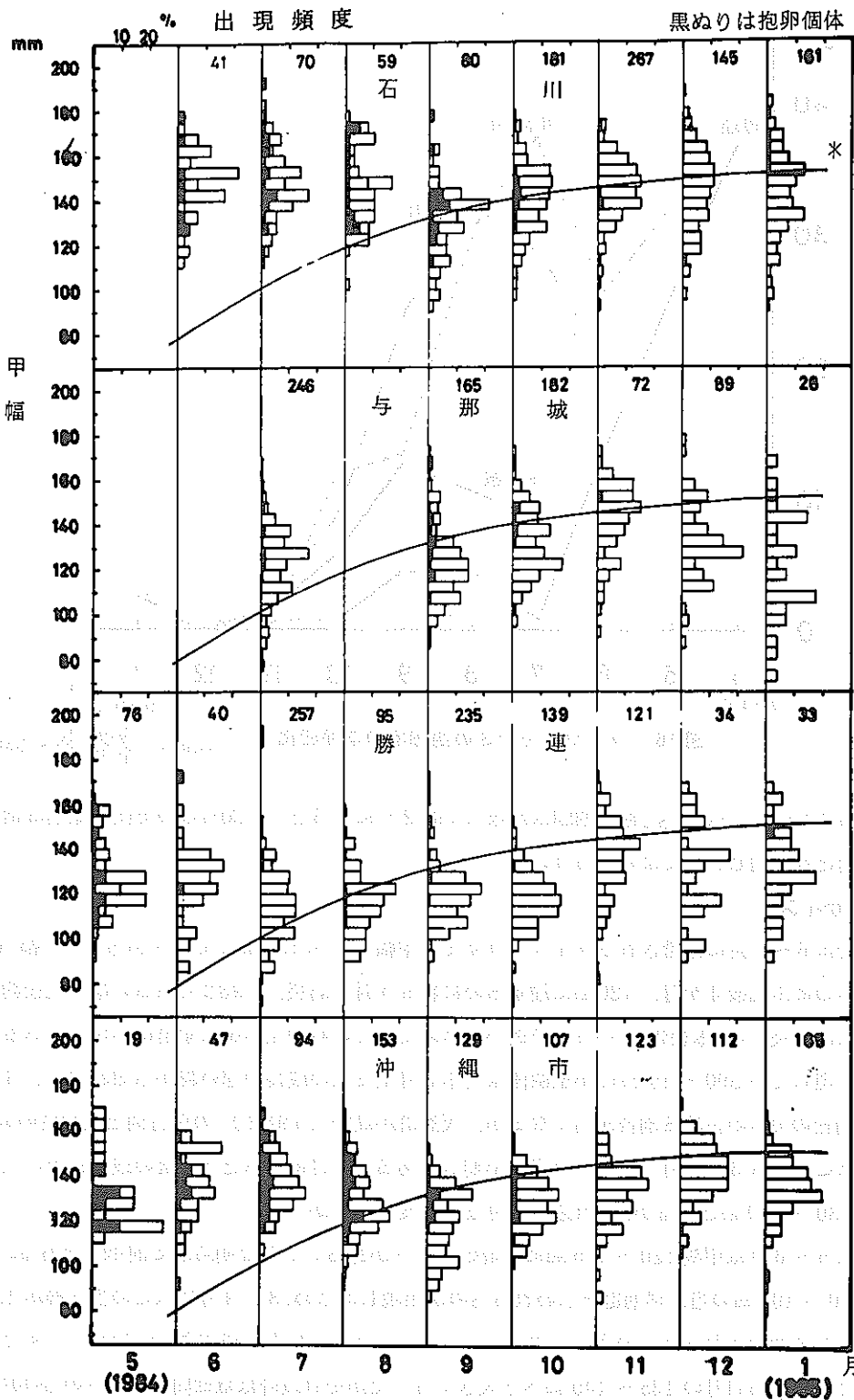


図 17 各漁協に水揚げされたタイワンガサミ雌の甲幅組成

\* 島袋 (1982) の飼育例から推定した 3 月生まれのタイワンガサミの成長

図中の数字は測定数